

# 税をより身近なものにするために

最上町立向町小学校教諭 6学年 佐藤 和将

実施年月日：平成28年12月1日 35名

## 1 実施計画・指導のねらい

税金とは何なのか、自分たちにとっては、関係のないものなのではないかと考えている児童が多かった。その実態を受けて、租税教育を実践する上で、税を児童の生活と結びつけることにより、税の重要性や、生活と密接にかかわっていることに気づかせたいと考えた。町の税務課と連携した指導や、自分たちの学校を例にした税の仕組みの学習、今注目されている税制度など、児童が税を身近なものに感じられるような学習内容を計画した。児童一人一人が、税について理解し、自分たちの生活に深くかかわっていることを実感できるように指導を進めた。

## 2 単元構成・実際の指導状況

時間	学習内容	○主な発問、●児童の反応、□使用教材等
1	・租税教室を通して、税とは何か大体的意味をつかむ。	○ 税金とは何でしょう。何のためにあるのか考えてみましょう。 ● 消費税は知っているけど、それ以外の税金ってなんだろう。 ● 税金がないと困ることがたくさんある。 □ 税のビデオ (マリンとヤマト) □ 町の税務課による租税教室
2	・税金の働きについて、最上町の身近な例をもとに学ぶ。	○ 向町小学校の改築工事は、だれがお金を出してくれたのでしょうか。 ● 税金という「会費」をみんなが払ってくれたから、学校が新しくなったことが分かった。 ● 町だけじゃなくて、国からもお金が出ているなんて知らなかった。
3	・税金の使われ方や集め方について学ぶ。	○ 学校以外にはどんなところに税金が使われているのでしょうか。 ● 町のいろんなところに税金が使われていることが分かった。 ● 消費税以外にもいろんな税の種類があると分かった。 □ わたしたちの暮らしと税金
4	・「ふるさと納税」とはどんな税金なのか調べる。	○ 今話題の「ふるさと納税」とはどんな仕組みの税金なのでしょう。 ● 税金を払った人も得をする税金なんだ。 ● 自分の好きな地域に税金を払うことができるんだね。 □ ふるさと納税サイト □ タブレット端末
5	・新しい税金を考える。	○ みんなが納めたくなくなるような新しい税金を考えてみましょう。 ● ペット税 ● 緑税 ● 子どもたちを応援しよう税 ● 保健所税 ● 雪国税 など

### 【指導のポイント】《1時間目》

町の税務課と連携して、税に関する関心を高めるために租税教室を開催した。1億円のレプリカに触れたり、税のビデオを見たりして、税への関心を高めた。

### 【指導のポイント】《2時間目》

自分たちの学校に関する事例を使って学習することによって、税をより身近なものに感じられるようにした。税の仕組みについても理解が深まった。

### 【指導のポイント】《3時間目》

わたしたちの暮らしと税金の副読本を活用し、より税についてくわしく学習した。クイズやイラストを見ながら楽しんで学習することができた。

### 【指導のポイント】《4時間目》

子どもたちが消費税以外に知っていたふるさと納税について調べることで、税への関心を高めた。最上町にもふるさと納税があることを知り、税がより身近なものとなった。

### 【指導のポイント】《5時間目》

学習のまとめとして、新しい税金を考える学習を行った。これまでの学習を踏まえ、自分たちの生活に増えるかもしれない税の種類を、楽しみながら考えた。

## 3 実践の成果 (◎) と課題 (◆)

- ◎ 導入で、租税教室を行ったことにより、興味・関心を引きつけることができた。これまで身近に感じられなかった税金の学習にも意欲的に取り組むことができた。
- ◎ ふるさと納税について調査したり、新しい税を自分達で考えたりすることによって、学習する前よりも、税という存在が児童にとって身近なものとなった。
- ◆ 所得税や固定資産税など、実感のともなった理解には難しい税金が多くあった。実際に納税している保護者と連携した指導ができればなおよかった。
- ◆ 児童が新しく考えた税を、税務署の方に見てもらおう機会を設けるべきだった。そうすれば、児童の学習と社会を結びつけ、実在する課題に気づかせることができ、税をより身近に感じられた。